

「お米への笑顔とありがとう」

白岡市立篠津中学校 二年
吉川美玖

「わあー。おいしそうなご飯。」

夕食の時間。食事をする準備を手伝い終わると、自分の席に座った。私の目の前にはみそ汁や魚、かぼちゃの煮ものなどの食欲を増す料理が並んでいる。そして、なんと目もひく一品は白いご飯。たきたてほかほかの白いゆげがたっている。お米一粒一粒がきらきらと輝いていて、よだれがたれてきそうなほど、私は食べるのが待ちきれなかった。

「いったっつきまーす。」

家族が席について食事の時間が始まった。大好きな白いご飯を食べると口の中に甘さが広がった。ほっぺたがとろんと落ちそうになるくらいおいしくて、私は笑顔を咲かせた。

私は小学校五年生のときに米作り体験をしたことがある。その頃の私はお米の気持ちも農家の人の気持ちも分からなかった。だから米作りというものはどのようにしてできるのかわからなかった。私達は田んぼにたどり着くと、田んぼの中に足を踏み入れた。少し冷たくて、やわらかい土の中に足を入れると、ここでお米一粒一粒が育っているのだと、初めて実感した。

次に苗を植える作業をした。私達は手作業で苗を植えた。思っていたよりも体力が必要で、腰が痛くなった。手作業で行うには、それなりに時間がかかる。また、苗の間かくをきっちりそろえることや、真正面から見たときに植えた苗がずれているとあまり良くない。そんなことに気をつけながら作業するのは大変だ。しかし、農家の人達は、毎日汗を流しながら私達のために育てている。また、そのぶん、やりがいを感じるのだと思う。手作業でしか行えないことをするから、おいしいお米が作れるのだと思った。

秋になると収穫をして、米と草に分ける作業をした。五月頃に田植えをしてからすくすくと育ち、あざやかな緑から、秋を感じる黄色がかった茶色へと育っていた。これは機械で作業をした。私達で心を込めて作ったから、たくさん収穫することができた。収穫したお米は後日、おにぎりパーティーとして、皆でお米のおいしさを味わった。私達で汗を流して、ていねいに仕上げたお米。それには、一人一人のお米への気持ちが届められていた。「おいしく育って欲しい」という気持ち。「いつも私達のために作ってくれてありがとう」という農家の人への感謝の気持ち。それぞれが自分のお米に対する気持ちが伝わったのではないのか。皆が笑顔を咲かせておいしそうに食べていた。すると、私にはお米からの返事の言葉が聞こえてきた。

「ありがとう。」

と。皆が心を込めて作り、おいしそうに笑顔で食べているのがきくと、嬉しかったのだろう。だから私はお米に向かって言い聞かせた。

「こちらこそ、いつもおいしいお米をありがとう。」

そう、心の中で気持ちを伝えた。

五年生のときの体験から、三年も経った。普段、普通に食べている白いご飯。皆は気づきにくいだろうが、そこには笑顔とありがとうが込められている。きらきらと輝くご飯を見るだけで笑顔になるのも、「おいしい」と言って笑顔になるのも、ありがとうと言う気持ちを伝えていく。笑顔になれるのは、お米がいるから。お米に対してありがとうと言えるのもお米がいるから。いつもそうして、私達のことをお米は見ている。だから、これからもお米を大切にしていって欲しい。私達はお米とつながっている。そして、お互いに感謝しあっているのだ。

「今日もおいしいご飯を食べられて幸せだなー。明日も、これから先ずっと、私達を見守っていてね。」心の中でつぶやきながら、今日もまた、私は笑顔でおいしいご飯を味わった。